拔粟抄集

四

伊地知文庫
文庫20
360
6

文庫20
360
6

扶桑拾葉集巻第四

目録

雲式部日記

扶桑拾葉集巻第四

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

伊達文庫

紫式部日記

紫式部

秋のなかばのころ、土御門殿に有明の月いとをかしくて、池のわたりの木ども、やゝ木ぬれ
のもみぢ、とのゝ方ぶたのもみぢ、をかしくもあるかな。女房たち、ものの色
えんなるもとりどりにをかしう、ゆかしがりて、中こんの内侍、ものしたまふ
くるまのもとにまいりたまふ。月のいとあかきに、風のいとさむく
ふきたるに、ものの音どもかなでたまふ。あるかぎりの女房、みな
そこなりつるものを、こゝにてはいかでかはとて、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しらうすること・一枝わりセ侍て・水丁のうみをうしの
のをもを侍て・ひらはのほとしんしをたれか・我ほを
うはの思へきをれい・あれをていわうしんとの侍い
すをみをつををををのをををみをらぬ
をみをしらねのうはとみをうを
ををのわををを　ををををあし
ほかをををををすをめをを
をを　ををはわをををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををを

紀藤次

きのくにの方へ下向申候

この一二年は岩屋にもなし

あるべきことも思ひ給はざりしに・世の中の人々・

廿日のまつの松ばらに・かんもりの風上人・

いみじかりしかばにや・はつかの月のこなたに・

うしろ髪をつくづくと・なごりをしく思ひ給へ

侍るとぞ・たとしらるべき・わかつまの人々・

物うらさびしく・所がつまを・たのみ給へ・宮内

なりけり・左宰相中将・種房・兵衛督・みの少将・

まさもりなどの・いとをしく・物もとめ・わもとの花のと

物い・殿おぼしめしやらん・御さしもなく・

こゝもとの・人々・なるべしと思ひ給へ・

はるかに・なるまゝに・ものさびしく・

かし・廿六日の夜・月のいとあかきに・

歌詠て・ゆるしの・人々・

ぞ・こゝより・和泉道に・舟・宰相の君の・

のりたまへる・月をなごりに・

とんでうの・うらみを・

こゝの・うぶ・ものさびしく・

ゆ・給・ものさびしく・

ようにも・物乃・姫君の・

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くわこあるれを・これをこそ・ものの
きこと・ひろめ・ひろめ・たるかぎり・
青の河の間・ものの・ものの・
ようこせ・ようこせ・ようこせ・
ひろめ・かきつけ・ひろめ・ゆき・僧正・
ものの・かせ・ひろめ・ひろめ・書き・
ようこ・ようこ・ものの・ことの葉・
ものこ・たのもしきこと・
人・神・仏・ものの・
もの・ものの・

えの・ものの・ものの・
えせ・ものの・ものの・人・
ものの・ものの・ものの・
ものの・ものの・ものの・
ものの・ものの・ものの・
ものの・ものの・ものの・
三井寺の内の君・
ものの・ものの・ものの・
やまの・ものの・ものの・大納言の君・こ少将の
君・女の・ものの・女の内侍・中将の君・
大弐の・ものの・ものの・

ふるまひこそ、いとめでたけれ。ほそ殿の、ほとと
りもとなる、ほそ殿見たまふるまに、ものの
おぼえ、いとうつくしう、ものしたまふ。
さわやかにめでたし。ちゆうしやうの内侍のすけ、
姫君の中納言のめのと、いと姫君のこと
をしいたまひて、みちやうの母をみちと
え人もらはせ、もりちかしらの侍従、
ものおもしろくあはれなり。
四位の中将、道をいとめでたし。左宰相
中将、左の大臣の大なる、思ひかけたる人、
本下のみちうもちたまへるものを、

とんでもなく、ほそ殿のうちわたしに、ほそ殿
ゆかしと、雪のやうに、ものおもふ。
ものをいとあはれなる。
ほそ殿、ものをいとあはれなる。
ほそ殿、ものをいとあはれなる。
しかるに、ものをいとあはれなる。
ほそ殿、ものをいとあはれなる。
ほそ殿、ものをいとあはれなる。
ほそ殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々の前に毎日参詣つかまつり候ひて、後世
のためにわたくしに祈願せられ候へ。所詮
信心肝要にて候。此度先祖の菩提をとむらはせ
たまへ。とんやしなどみな
きこしめされ候。うちはたの数の
こと記録と、この所にて国
くに不行届の分、物語つかまつり、そちらに
かこつけのためにとのこと記
きこしめされ候。いのちのことそなた
別者と、いろいろ仕、家にたしなみ、
もと度々みまいの人々宮内大夫喜宮の

大夫なども内に参り、上意部
殿にて参り、記録の儀、
人々のこと、花見
にて、人々
うちかし宮大夫、
と、人々
こと、
右筆相伴将監、
思いのと、
以中将
有
あ

きぬをはんを・されをのをいらのうへ・されら住をきら
くるの三位つぼね・されめしてとらを見ぬ乃ぬ
しくんらいうして・大きなるうんの花をつくり
る・海中寺もの・らさけ数居のもの・くくの女の
先のを・されをのいをうのとうとう・火をもて子のをく
みをうのうへぬのうへ・をうをたくうたくうてされまり
をのををうをたるをうをうを・和母をををう
とうけをちうみり・宮のうをうしのたをれる・をけを
うををみをのうをををまいる・うんのうをうをみの命婦
をうを・うををうをうめりく・女房二人・和母とくをまみ
をうをうを・されをうをを十ををのまをいるうすをのうは

況・かうをれをかをを・をいをいらをを・をををうをうを
をいをををう・かをうをうをををて・たををを見を・されを
れを幸をれる君・されをを大納言君 源通方 ゆををうをかを
うをの思いをを・をはをうをを・たをををを・宮いを度をを
ををうをれをかをを・をれを将の君・をうをれをうを宮のをいを
ら生て・御をうををまいる・かをうをぬいをれのみのをん・を
をるをををて・花母をみのすをめをかをうをををは
うすをのうを・をををかをいをう・をれ将の君い秋乃草村・を
をうをを・をををを・をてををかをやををう・ををの
はかをうをうを・人のんをを・ををををををををを
をかをを・をををを・度のをんをををを

ゝ・源中將 雅通 なと・うちまゝとめきの君・わ
たくしうちあくうんせ・いのゝそいたゝ・湯ゝしの
せゝ法・ゝ・せゝ・ゝ・ゝ・かゝらもめとと
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・文ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・史記の一ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
五位十人・六位十人・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝの・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
のゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・史記文帝ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ

七日のゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ

みあらわしなどして、さしかやうなる
さま・人々あるべき中文などいとこと
ばなるべし・ことわりもいとをかしき
まちのはおもしろとえうしてい
ひしらせ・いのちもあるべき・とかくこ
ゑうせて・神くらふ・さとのはしめも
ものさはがしい・雪降
山と月のひかりもみてたうしてさら
ちこゝかとえわさされを・ゆみとりけるに・三日よ
すせ給へ夜い・宮つかへ変らず・ゆゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくるるとにてこれわれ人の如くなれ・ひとりもいたら
ねわれらはいかゝとみるうい・をけらは・ねいかにとのまる
とて・うゑのかのるこゝにゆきて毎にまたせ・うう
ねへうこゝにとゝとえて苦行してみせ・ん
へなるるゝ・中老ゝゆるゝとみは・所の如ん
かくて・こまゝめるゝ・世ゝ人のるみきし・ひとりの
ゑゝい社ゝゆるるゝ・ゆゝこのかたのゝかゝ
まいる・ゝゝゝかゝ所中ゝの・ゆゝて・五郎や
ゆゝみのゝて・又みなみ・ものゝゝめゝ・ゆゝゝうし
一ゝ・ゝゝゆゝ・ゆゝゝ屋ゝ・夜物ゝまに月のま
ゆゝゝみゝ・ゝのをゝ・ゝゝゝん

ゝゝの女房・ゝゝも老めゝ・みをゝゝゝなゝゝの
ゝゝゝゝん・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ・ゝを
ゝのゝん・ゝゝ・ゝゝゝゝゝゝ・ゝを
ん・ゝのゝゝゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝ・ゝん
ゝゝゝゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝの・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ・ゝ
ゝ・中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めやときれ・女の用はつ・もに去ぬるものと・松
うえつきとくはかりめをせて・ん[illegible]かもし・中将
のたとえは・ちんとはたらき毎・去ぬるものとも
とく・はかり去ぬる・めれのたとえ・去めのうみ
すをこれか・こと也・この物・人なり・生ぬ表の沿革
のはつ・こと人なせま用・ちんと・ちはつ生とこの
さつ物・はつ物・物と・はつのをて・まつ世をかめて
めたこと・ふえ見・ちつ・ふ代・はつ・はつ・はつ
こと・本とんとこと・こと・はをこと表こと
はつ・うんちめ産とめたて・はつ・のつ・ふ・
服とつめをつ・撫ちつ絵・紙つはつ・ふ代・海と

物・談ちしはつ・女房ふ用ものはつ・ふ代・はつ
はつ男はかと・ちつ・思・はつ・はつ
めはしこ・はつ・はつ用・思
ちつ・はつ・ふ代をめつ・ふ
四条大納言なら・ふ・ふんと・こ・ふ・ふ・ふ・ふ・つ・ふ
ふいの・ふ・女也・ふつめ・ふ・はつ・ふ・ふ・ふ・夜
いたつ・めけ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ
ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ

[illegible]・[illegible]・[illegible]・

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いくらも・とくるかぬともに・はやとゆれ
しくれえめと・まさしくもやにたええ
るをふしら・あるのわ・ゝくの・ちらみは夜
なり・十月十七日まそも御子おきせ給ふ・あ〻の
きとの・花の・ゝまよりあらはれ・ら月の
夜中ものいはれ・ゝ月のとのゝ
らなとゝ・ゝきとゝ・ゝ・ゝ給ふ・ちらけて・ゝ
る・ゝ・ゝ・なんもめ〻・花月まて・おそ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ

ゝとて・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
宮のゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
中（貞平親王）・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ・ゝ

たとへ[illegible]の・[illegible]のめなす・[illegible]・[illegible]
[illegible]・わ[illegible]
ま[illegible]・あ[illegible]
[illegible]・[illegible]・わ[illegible]
[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]

水[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]・[illegible]・[illegible]
たこ[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]

雲[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まて出給へ。まつ次けうらに物のいまゝ。ねたい
物ゝ。ふしのを見ゝにこうの毎ゝ。行幸ゝ物ゝ乃
らにとまりあつらこうの人ゝ家をしゝつゝい上
達部殿上人。ゆしのあいかしこれゝ思いかやうよ
きゝうきこしいつと。内侍のかんの宣旨のよ。中ゝ
人ゝをしめしもいみゝらの人ゝとゝの。陸奥
少将の君まいり給へ。とゝ後ゝ物ゝ。ゝ
思いのきゝこゝし。日ゝをきかんと。ゝ物ゝこんもは。
物ゝ。ゝ。ゝ。

のむとうんのうゑ・ゑをこのこと・もんしうこと・ゆきゑ
と・ふしきんよ・ゆめ・ゆ・ゆ・ふ・ふはらしたくの立へ・うゆ
ゆまいらんする井・ゆ・ゆ・ゆはさとしたかし・いきうゑ
うゑをるかうくめ・うゑ・ゆやうよさとけるゆ・えへと
めのをうとのうちに・うゑ・ゆいうこのてること
ほとけ・ゆにてし・をなゆ人の・ほまけよ・す
うつみうをんうゑ・ゆうこうはめて
このみゆ・うこみゆ・ゆ・ゆしゆうちゆん・ゆめゆ
ゆとうこしゆゆ・ゆ・ゆをわい・むしゆまくう
きんをゆめゆすうゆ・かゆゆきんとまてゆ
ゆ・ゆをゆ・いとほるゆしゆすうしうのゆを

ゆしたるゆ・いとうう・次中將・れうゆ・ゆとうゆ
ゆほうゆ・みとゆ中とんゆうゆ・ゆゆうこんゆ
れいゆゆとうゆ・ゆうゆゆうゆ・地ゆけ表・うゆ
うゆ・とゆゆ・ゆうゆ・ゆ・ゆ・ゆ
の中將ゆ・えいゆゆ・うちゆゆ・ゆ・ゆ
うすゆとみちとうゆゆゆ・中ゆうゆ
ゆうゆいのうゆれゆ・うとうみすゆ・ゆうゆうゆ
ゆとゆ・ゆ・とゆいうゆ・ゆゆゆゆ・ゆゆゆれ
ゆい・ゆ・いゆゆゆるゆ・ゆうゆゆゆゆゆ
ゆうゆれとうゆゆ・うゆゆ・ゆとゆ
うみゆうとゆ・ゆゆうゆゆゆゆゆゆゆ

ぶしはうきうんをたほ[illegible]
くめの[illegible]衣とんぐ[illegible]
ぐすぐ・一へくの[illegible]
くきたすはま・中ゆ白こ[illegible]
たくたのみをかとりしく[illegible]
たくなりしこのつこ[illegible]
まゆあめうこちもうちゆ[illegible]
ムとはくしてはくない家を[illegible]
ゆ・女房の たくうかゝ[illegible]
たとおいとうたに[illegible]
くくゆ・まくたくたこ[illegible]

ふゆ・きていのくきうかみの[illegible]
人のくち地をあ[illegible]
ゐんう・かくこ中ゆきちれ[illegible]
れくこあめ・うゆてうう[illegible]
うくゆ・めくいまつはいこ[illegible]
ゆう・ゆゆあいの人[illegible]
まん左京のたくそのかゆ[illegible]
すみのくうくうくうの[illegible]
左京はあとのいゆ白[illegible]
ゆ家の人のくの衣・衣い[illegible]
うゐい・橋三位・あとのいのかく衣・かくあやの乳

葉のうちに花・うぐひすなんめり毎年ここの春ごとに
ちらしぬれば・殿わたり宮ばらにもみせ・殿わたり宮ばらにもみせ
おまへにいてきて・うぐひすは・ものを・ものを・いとを
ものをもわすれ・弁宰相の君・れいの
ものをまぎらはしつつ・ものをまぎらはしつつ・ものを
たにすぐるうぐひす・わがうぐひすにものをまぎらはしつつ・いとを
けさ・宰相の君・いらせたまへるとて・いとを
ものみて・おはせる・ものを・ものを・衣の文
も・人・ものを・かくれ・ものを・上達部・おまへ
ものを・ものを・方々・ものを・古今・楽・うた・ものを・ものを

ものを・地・やう〳〵・ものを・ものを・ものを・山・ものを
のみ・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを
ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを・ものを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て、又の日宮内卿殿、別当殿を
人々も、さゆかしがりあへり。この[illegible]てしたりて、祝ひ[illegible]
こと、花やかなる事、[illegible]乃[illegible]
[illegible]と、あつまりて、[illegible]前の方、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]て、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐる・大宮えいとゝ先乃乃ぬ・すはゝ乃乃ぬ
ゝ・ゝ・ゝ・

[illegible]て・衣のつま袖[illegible]
[illegible]・[illegible]
[illegible]
[illegible]

おもう心をしらせし君うみ給し
あるかしのうらに風のふるかと三ゝしのうり丁第子給
て・いとゝうの給とせさら
何しかのうらのしのふい君ゝ代の
みを勢のうちかとゝ
さいうゝえい給て花さうもの花ゝ
るふい・ほを何のうふしよう花
ゝ・ゝえ給ようをゝ・ゝ給のかうも風ゝ
せ給のふ・玉代ゝ何ゝ
ぬうちみたを・花ゝいつ
めゝや・ほゝまうゝ

風のうふ給・風のうふ給
まうを・はゝもまゝゝ
めゝと・ゝいゝとゝうゝ
たりのふゝえ給ゝ・ゝと
みをゝふゝうをゝふ
めてゝ風のうふ給
をゝ花ゝ・ゝ
きゝゝて・ゝうゝみ給
うちとゝゝ給・富
何ふとこをゝふ
人ゝわゝいゝと給・ゝ

かりぬれと・へいうちつきぬ・ぬ・なを・
はるさきはたそういとをれまを・はをそ・はをそうてはまつ
むらいとをはいて・をのみ・えてとこの・て・とのかさ
をのかんとも・をへ・ほ・をそうはるを・をはみをしらは毎
のたいらあはめ・をて・むをとをくをて・はをしを・
かはかりをは・つをくををはるをを・ををはをを・
をとををて・ををを・をををを・ををを・ををて
みををとををまをををををつて・はをををのを
ををを・をのををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

かををとをををは・はをををはをは・はをををはをを
まをををはををををををををををををををを
をを・ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

くみなるめ・ひのもとの・花の色・雪・花・雪・
月の・人・雪のうち・月の・新雪・雪・
きりとめて・思いわさ・ほ・ゆ・ふるやいなをはやみ
ゆく・雪の・人・思・雪・ふるとなるめうら・くるめと
ものうかりつるかなつきの・うちかすら・人・花の人・雪
ものうれみるとかは・雪・雪・ものうれ・雪
ことと・雪・たうしと・思・ふ・ふ・ふ・
ふ・雪・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・
ふ・ふ

世の・さまを・おもひ・みてしらぬ・ものもなく
ひろしなどいふ・めるえびすのうちかへしに・きこ
しめさせんとて・ものしたまへるなりけり・ものの
ひろうあつまりたるなかに・ものしたまへるに・
きうしのかたちなりけるものの・ものいふこゑ・人
君のもとにまゐりたまへるなりけり・大納言の
ものしたまへるに・ものいはせたまへるに・
きうしいはく
うゑ仕せし・水のうへのみうへにて
かもとりけるかりをとこめ
ゑ

うちうちの・ものがたりの・はなのあるに
ほひ・ことことに・ものしたまへるに・
かぐさまにおかしきほどに・ものしたまへるに・
人々かとみる・雪とぞいらんしける・かりをとこの
うたとなん・いみじきみ・ものみる・花のもとの人々の
とのうちの・ものがたりの・せうとこそ・
なれど・ものしたまへるに・ものしたまへる
しる・せうとにて・
ものしたまへるに・ことはの・はなのもとの
ものがたりの・はなのもとの・
ものがたりけるに・ものしたまへる・
の・ものがたりの・ものしたまへる・
ものがたりの・ものしたまへる・
ものがたりの・ものしたまへる・

いのをつかまつる人々、世のかぎりあり尽くわたる。春の
えんうしてたちまち飛うしれ、うちれば如雲し
十よ人、みなのれむしの法師戸開きて、みなう。
四うしきまうへ、中納のめのもわ宮、北方
ての大納言宰相の君、右近つかさ、つきの車
よ。こゆ右宮の内侍、つきもむかの中将とのもの
と思い申うしし。おのうしと思いきしを。
侍中かの新の殿、むつ君たちとしふとの
うちれば侍従の君、兵乃内侍、つきも寄れおし
らのせん。きうとまいきて。つきの
きいのくるみてのうる。月のくまなくみてのう

わきやしおうとい侍。いのしとそらきう。むまのはね
の君とさらみもたれ。おくるも君たりしに
さはうを。我うし侍をみをくるしる思い君
れ。母をとの三れ。そちよ入て物しれ。こゆ
の君しおうて。女房うあるうまの君と
うしいつ。とくみうる衣をとる。いつう
ものうきかをして。乗うる火とうを入る。
よくうとのはうあるを。侍従の宰相君
宰相中将。うんのれ中将なる。侍従のうしに
つ。うつあいゆ中うる。あういかをとれ
おとうれて。やみのしるとおうを人々とい侍

[illegible]・いせのくにとみなもとのかね
[illegible]みてはるゝ・こゝろ・ひつ・ものゝ
のうたとうろ・その書・いとうちん
くゝのしらせ人とゝもに思とてるわゝ
ていはせ・大くゝの世の御・こゝ将の君のと
のゝ御おもひけゝ・くゝはしと思ゝみて
と見はるゝ・ち君くゝこそは・まとゝ・人の
ゝのとくゝいきくゝの書とゝ・ふし給へる
ゝ・くゝの世とゝの御・けきこゝはゝ
す・ゝくゝのくゝのうち・ゝ・いたくし
みゝんくゝとゝ・てくゝこゝとくゝ

ゝは書ゝくゝ・はくゝゝゝれくゝゝ・古今
後撰集拾遺抄・その物ものゝ
つ・書（行成其時大弁）くゝの中初言と延轉とのくゝ
四くゝんとゝのゝてかゝ
たかゝかのくゝみ・かきこのゝ
くゝの物・ゝとすをくゝの・ゝ
のいくゝ乃集くゝくゝ・ゝんうんと・ゝくゝの君
かくゝゝ・ゝくゝとの月て・くゝ
けくゝせ給へ・みくゝ・ゝ
ゝ・ゝゝゝくゝゝ
ゝ・ゝゝ

世くなりぬとはきくを。右宰相中将の五きち。
ゆきふるはるのあさぼらけ。
をのれて。ふと梅の枝を
みるかほをなつかしはなのさかりなる
ものゝかをにそめしこゝろのあさからぬ
さくらにまさるこゝろかな。
ゆめかうつゝかとまがふ。
上人れいのとはせたまひしかば。
うきをうし。へいゆんいきとつゐるときゝし。

をのゝ
と。
はるこゝろ
ものとやうかゝるをゝ
かしはれて
ゆゝ
ちゝ
みや
右宰相中将れ。
をゝ

人目をいとはしく、はゝ女房等はのゝ
ほめそやしくこゝろをあらはす。うつゝ十人ばかり又ゐ
しのみをおぼして、こゝろをしれるこゝろあるのみは
ばかり。考ずるまゝにたゞ人ところ
ゐをうつし、ほゝをみてわこをあ。やがて月日の
ゆくこゝろ。殿上人まうのぼれば、私のこゝろなんと月に
よきこゝろをいはせる。やゝ、わらべ人もらせ、見つゝしを
思へるきこゆ。ひるは衣しゐてをうし。
さて夜ひる。去宮の殿をゐたゝきて、ものゝ物
おぼしやうあるこゝろ。一切は、もうしいれもをはせず。
たゞをものゝうへをつゝしきる。さて夜いたまの

ゐんへそうゝ（ゐ）わたしをはせて、ひらんとわが宮おはしまへ。
ひまをしのぶ。ほゝをかをこゝろをあらはせ。ゆゝしきかを
ゝ物をゝ。このゝをさゝ。ゐをゝ考ずるゝ。ゝまゝ。ゝをゝ
おもゝゝ。ゝをゝ。ゝをゝ。ゝをゝ。ゝをゝ。ゝをゝ。ゝをゝ。
せゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
おゝゝまゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝにとせゝゝゝををゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝ姫ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ゆかりて・わかうらつこ・とうれきこい
かとこそ・ひろふかとこそ・こゝゝゝゝゝゝゝ
かるる・からぬうらあるゝ・ひろんの日ハわかうらと
とい・ところなひろ物と・ゆゝ・ゆくるんかんと
ゆゝしきゝ・あゆみかいつゝ・ゆるふ・ひのい
なくもかつれて・ゆをわくこをひふ・ひろふう
ゝとゝ物ゝ人ゝと・ひのゝもわゝ・我と
わしとひとかゝ人乃ねとして・ひゝいゆたうふて
なれしゝや・めゝ・ゆうつ・おゝゆうきやゝゆと
ゝゝわゝと・ゆめゝとゝ人乃めゝこをかとのゝきゝ
めゝ見ゝゝゆゝかゝゝゝゝ見ゝゝ・ゝゝかゝゝゝ

あふこもゝゝゝゝゝゝ者と・をゝれんゆゝ乃
國ゝゝとゝゝ・ひゝゝゝひのゆゝをゝ乃ゝとゝんゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝひゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝのゝわゝゝ乃ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
思ゝゝゝゝ・後寧れのゝわゝゝ・ひのゝのゝゝゝゝ
もゝゝゝゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ・わゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃中將は・わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ん物のうちなして・物のいろいろかしこくふる所
かさうそ・六位の人・ふるき女・ふるき
物きつねとのうへ・女房・ふるき
うばうめ・ふるき・ふるき
らい・のうらうるまうすし・かくまでもうたんも
ほてい思ひきやと・ふしとめて見をほのうら
とのふ人のんなりたしかに・ふるき・ふるき
もしまるふしきそ・初さわをそなかんし・ゆきらとみ
のうらうるの・夢のやうみたいつきふし・ほうま
ことにきく思ひうらて・おくしくわ見ふしあ
うきれいかるうらう・侍従宰相のあきうしたる・宴の

おまへの・ふるみうすはるをなると・きそ・ものうみ
とをよはく・きれうもみる・人の物をうばうのこ
うる・うばう女・ふるきか・左京しまをうる人ふん・と
ふしうるもをもうる・宰相中将・むうみきてかう
ばうと・一夜うのうばうはひとかうし・ふんしをう
しなん・左京と・原少将・むうしふんきうるとの乃をすう
のうう・ばうふるうる人・おううし・ほうるふし
いつ・ほをきをはほはしむうふんたうた
ふるしきんうちわう・かるうる・ふるうるとをいをうう
へう・きのうをうるをうんのふて・おまを
のうふうも・ほうまを・ほうらいつうるる

とし・えてゑ・ゑ・ゑ・

てうかくいきみかくうきやうきと・わうやうの殿上人かと・
ほうみかうしたかしかんん・うち松のさうんうちうさ・さい
ちみいきのはし・夜らい・女房ゆうふく・申もかく
らとうのうしはかいとしらうをなやはらと
すきめると・ゝにゝせをかをはる・かきちいし
かしまたにわといもたに聖い・こをはるゆ・ち
とのすを・かをみみまうしふてを・こをのやか・ひと
つをふしおしまうすをゝ・陣内人はれつかい
とのゝ・梳中将の君ゆう・せのはかをのをふしん
殿ちとのかをちをはるゆ・うんちめり・まいとの
うんゆらうと・夜一夜かを殿わうふと

これふうはたちい者うつあうこうちけ殿い
ちのゝ隨身・このちのゝ・ちんはいんよ・うせをてをを
ゝ・のうしうこのゆきを・者ゆうのうはしうこををへ
ゆう・かゝみをうふう・うんのうゝ者ゆうのう
ういかと・うういの君の訪ん加かをはへはゆうをと
ゝう・うこのゆきみ・のうちうをうてゆう・日
きの返すゆめ学・うしゆうはうて・あゆしこと
のんゆいうのうのあとゝゝ・このけやゝの
宮うちとんえはう・かうをうゝ者ゝはへ
かゝうちゆをきゝはうし・うるかうしゆゆ殿
わきと・いとおゝうをゝ・をのうゝをゝ

のぼりて物ゆらんを・ほとゝ
ぎすしきりなくおとゝろかしの君の変ぜて・ほと
めかしくおとなしき・ものゝ・こゝろ・こゝの食物・まゐ人よ
ゐも見物・うちゆるしなくなるに・御とのゝみ
なれかゝるに・ほうらしの時・花ちまいれば・花の
くるかたもはるかなるかぎり・うまのこゝろ・こゝをゆるくい
いとつゝましきなりしと・こゝをゆるくおもふ物・まゐ
見しるまゝ・ゆるしなれば・おもひ・花
ゐこと多くはて・おもてのゝ九日にまゐる・ゐ見て
ゆるしも・こゝいの・おもてもて・ゐらくゝ変ぜみとは
れしるかなおもひ・ほうらしかゝ・こゝ・ゐるしよ・きるも
ゐ空ゆゑの方の月とやゝ物・おもひ・物おもひ

物ゆゑ・おもひ・ゆゑ・ゐるし・花・おもひ・まゐ・ゐ・ゐ・ゐ
ゐる物・ゐる・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ
きゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ
ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ
ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ

ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ
ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ
ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ・ゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛仏六年

八月一日、大納言の君、内裏へ参り給ふ。
三日、せちまゐりの事せらる。
大納言の君、内裏へ参り給ふ。
四日、大納言の君、内裏へ参り給ふ。
五日、内裏へ参り給ふ。
六日、内裏へ参り給ふ。
七日、内裏へ参り給ふ。
八日、内裏へ参り給ふ。
九日、内裏へ参り給ふ。
十日、内裏へ参り給ふ。
十一日、内裏へ参り給ふ。
十二日、内裏へ参り給ふ。
十三日、内裏へ参り給ふ。
十四日、内裏へ参り給ふ。
十五日、内裏へ参り給ふ。
十六日、内裏へ参り給ふ。
十七日、内裏へ参り給ふ。
十八日、内裏へ参り給ふ。
十九日、内裏へ参り給ふ。
二十日、内裏へ参り給ふ。
二十一日、内裏へ参り給ふ。
二十二日、内裏へ参り給ふ。
二十三日、内裏へ参り給ふ。
二十四日、内裏へ参り給ふ。
二十五日、内裏へ参り給ふ。
二十六日、内裏へ参り給ふ。
二十七日、内裏へ参り給ふ。
二十八日、内裏へ参り給ふ。
二十九日、内裏へ参り給ふ。
三十日、内裏へ参り給ふ。
九月一日、内裏へ参り給ふ。
二日、内裏へ参り給ふ。
三日、内裏へ参り給ふ。
四日、内裏へ参り給ふ。
五日、内裏へ参り給ふ。
六日、内裏へ参り給ふ。
七日、内裏へ参り給ふ。
八日、内裏へ参り給ふ。
九日、内裏へ参り給ふ。
十日、内裏へ参り給ふ。
十一日、内裏へ参り給ふ。
十二日、内裏へ参り給ふ。
十三日、内裏へ参り給ふ。
十四日、内裏へ参り給ふ。
十五日、内裏へ参り給ふ。
十六日、内裏へ参り給ふ。
十七日、内裏へ参り給ふ。
十八日、内裏へ参り給ふ。
十九日、内裏へ参り給ふ。
二十日、内裏へ参り給ふ。
二十一日、内裏へ参り給ふ。
二十二日、内裏へ参り給ふ。
二十三日、内裏へ参り給ふ。
二十四日、内裏へ参り給ふ。
二十五日、内裏へ参り給ふ。
二十六日、内裏へ参り給ふ。
二十七日、内裏へ参り給ふ。
二十八日、内裏へ参り給ふ。
二十九日、内裏へ参り給ふ。
三十日、内裏へ参り給ふ。
十月一日、内裏へ参り給ふ。
二日、内裏へ参り給ふ。
三日、内裏へ参り給ふ。
四日、内裏へ参り給ふ。
五日、内裏へ参り給ふ。
六日、内裏へ参り給ふ。
七日、内裏へ参り給ふ。
八日、内裏へ参り給ふ。
九日、内裏へ参り給ふ。
十日、内裏へ参り給ふ。
十一日、内裏へ参り給ふ。
十二日、内裏へ参り給ふ。
十三日、内裏へ参り給ふ。
十四日、内裏へ参り給ふ。
十五日、内裏へ参り給ふ。
十六日、内裏へ参り給ふ。
十七日、内裏へ参り給ふ。
十八日、内裏へ参り給ふ。
十九日、内裏へ参り給ふ。
二十日、内裏へ参り給ふ。
二十一日、内裏へ参り給ふ。
二十二日、内裏へ参り給ふ。
二十三日、内裏へ参り給ふ。
二十四日、内裏へ参り給ふ。
二十五日、内裏へ参り給ふ。
二十六日、内裏へ参り給ふ。
二十七日、内裏へ参り給ふ。
二十八日、内裏へ参り給ふ。
二十九日、内裏へ参り給ふ。
三十日、内裏へ参り給ふ。

はらいきよめ・はらへとこ情しるう・うふ人ゝぞとそ
ゆうみ・うみてけよさんきんをあつまりとも・あまを
つさ・かんをしかるそ・あゝさることのれこゆうま
うつうに・のほしほをしらしくそるしさをら
しあなるかるゆうす・せむしの君はりあきゝかう
ほをやうみ・とひ・あ・うみのうとゆやうはよ
くわいきうれ・ほうら・一尺あつにのまうあまの・
ほとんうつきみ・はたるかくにうなるはうほ
物ちうしのあみくあ・おうあ・わくふふ
ふはいきうと・ちと・あそかゝいうをにの先と・
ふはとうちうのあゝしわ月・この次ゝ人のわうと

うう・はうえきは・物のいはるかやは仕
はやこのうあゝ人のことは・わくはいはうをや
ゆと・そうしかとわるはいはし・寧れの君と・
小乃三位乃をふくうみ・ほをゆゝこはゆう者ゝ
ゆうはかうちうゝ人乃・うちかるうしみて
はゝみこうれうちはとうらしくて・くうち
つさみうつうきしみはいゆゝこをしをいう・
ううれかと・ほとゆしくるやうをたくあまう・
ふこはゆいとをやをくふにくこゆう・又ほを
ううしう・こかれの君ふ・をこかるとと
おくはそみるはめうしう・二月かるのきう柳乃はは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一人ゐてのまうす。きちうめ〜おんうをまゐらせ。ゆと
ゆ〜うわをゐる。ゆ〜よおろて。きをしりすみ月を
ら七。ゐうりふをうら〜ゆまりてけめ女。古月と文人ゐみ
いとゐうくけし。むうふ〜ゐわうを。ゆまふをとうみ
にふをうをゐうゐて。を七。きをわしてけるゐ。ゆかいい
〜う。ふうを七ゆかう。ゆをしうりよふと
わゆうをしゆ。ゑをうゐて。ふうを〜。ゑをゆ
ゆ。うをゆ〜ゆやをゐ。みゆ〜ゐ。ゑうを〜。
ゆゆ〜ゐゐとうを〜ゆ。ゆをゐ。ゆを
うをゐけることゆゐる。ゆ院よ中将の君と文人ゐる
ゆう。ゆけるたうゆうう。人ゆをゆ〜ゐうを〜ゐる

文と。ふを。ふをうみ人をうて月をゐ〜。ゆをを。わゐのみ
ゆをゆいをのゆ。ゆと。ふゐ。ゆゐゐゐゐゐ。ゆを
ゐの人ゆ。ふゐをゐるゐゐやうを思いては人ゆ。ふ月ゆ。
を。ゆをゐみふゐ思ゆ。ゆ。ゆゐゆをゆ。ゐゐ。ゆめ人のゐ文
ゐうを。ゆ。ゆゐを思ゐ月ゆ。ゆみゐをゆゆ。
ゐをゆをのゆ。ゐうふゐゆ。ゆ院ゐうゆゐゐゆを月を
ゆ月ゐ人ゆゆゆふ。ゐをゆゐ人のゆゆいを。ゆ院を
ゆ月。ゐ。ゐゐゐゐゐゐ。ゆをゐゐゐゐゐ。ゆ
方ゐ月のゐをとゐゆゐ。ゆをゐゐゐ。ゆ院ゐうゐゐ
ゐ。ゆ。ゆ乃。ゐゐふゐゆゆ。ゐゐ月ゆゐゐゐゐ。
ゆ。ゆいとゆゐゆゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。

なぜ世につ毎人とてていこ毎んよい・このみ好まるわるの
人み・うゐにしとうとしいい毎きらしと・清水みゑ学めち
て見るくいかし・おうしうきゆ月と比・ある有月・花のさ
らと・郭とのうとうれ形み毎つ学ふしい・慌いゑ比
四人の中おうして・おのさ毎いゑ世るるふんさいう
又毎うと毎こうふうれ・うしみ毎人のめせ好み比
しい殿みんまいま好・四とのみるなととのうふうれ
おやし毎しらん・きうしつき・とのつうこのむ形
おうぬれと・えんみるこ変つうんけ・なみのい
ふなは・いきうしとうふ表はん・おいとむとれ女
とおういまうんくせよて・かの慌み毎らいはと。

せこにうきうぬおうこかいふいい・まの子と・人みる
みうこ者と・いいおゆと比うきなられと・公ゆううしとの
つうらる毎めうこなはいはうん表・毎うわうと人み
ううちみつきてうしのうしみつまうこ元をおうう。
とのうのんみ毎とう・家きうゆうらとの洗いうん比
このみ毎うゆんい・こうとるうと人みたうはうまいき
れううらわううまれんみういはい好・鄰
比ういおうし郭と・比の四毎殿と・いいみる
る四いつうしれ・たうこと女といとまうこ元しなれ
ようらうと・富のやうとて学みうゆと・清比四
うううと・たみういうれい・ちううゆうんと思人と。

和尚様をさていておはせをしたまをくことのとらせす。
とのんからんの・ゐはしおまぬくはるぬこゐる
くんせのゐることなくやう・さきさきやうの人の物をたま
にゐらうてうらかくこはゐ中宮乃人・うとんな
をしいらくいるくなをしいはなくて・上らく
中らくは日とのわまうをもかくてのみ
はるめる・ちはみくて・宮はれゐめとのくうゐ
見らくうをはをと・うふくとかえうてはるやあ
と・くいうるかうくうくて・こをかくおうゐをこ
はるを・をのうをとらふいのことふをはるめる
くう・ふとわうくとふをゐんとまをうち

はるををせ・んくうくふしはるむを・はとうふいゐん
ゐを大くとくとうくるふけをゐをもうをくんはる
ふいを宮乃ゐくいのゐ形ゐくらうくくんをく
おうくまを・ゐとのまゐをゐはるみをはるをん
をみをいはゐ・いくはるゐんくうゐ物をく
くうをはくい・をみかくくをゐはゐのう
をゐゐのをうゐを中くるこをまをくうをふる
ふをくうくゐをくををくうくをくをくはるを
人乃・形をつをくわしいうをおくうををくはに
こをく・物乃おうをいはるゐくをば・ゐくいを
おをゐるくゐをおいくまをくをにゐるくはるを

と笑へば、おのれ、おのれ、さみなんぬ。さて、三位殿かれ
ゝをすと、ゆめゆめこそ、おのれ、ゆるさじ。
はゝ、うちこめうる人のもとへ、みな、ほうをうる
ゐ、ゆめゆめ、ものゝ、ほうをうるこそ
はゝ、いかゝ、おのれ、おのれ、ゆめ、ゆめ、
人のくらいをうばはんとすれば、ものゝ、ほうをうしなはるゝと、
ゆめ、ゆめ、おのれ、おのれ、ゆめ、ゆめ、
と、これ、おのれ、おのれ、ゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ
ゝゝ、ゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ
ゝゝ、ゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ

おのれ、おのれ、ゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ
のうんゝと、ゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ
みなゆめ、ゆめ、ほうをうしなはるゝ
ゝゝ、

人のあるらしをいふなるべし。かゝるまゝにかの
ねもかゝるものゝふれもんらかゝこうん。又かとてゐる
ものをうしきゐるらへきしこの国ぶを。ゐる
くのゐるさゐよきうくしてとうゐんこの。まをうゐる
ゐるへし。まつい宮乃大史国のうゐるう。ゐいをきをせる
ゐをゐこをゐるうゐるゐゐ。いとゐのへるゐこゐの行上らう
ゐらふ。たいゐんしゐるへこかゐゐ。又ゐのいをなゐを
とうるかゐしをゐるへゐ。こをこのゐるゐゐ
ゐゐゐゐふ。人ゐゐゐまゐ。ゐるゐゐ行ゐ。つをし
ゐうしゐうゐるへゐゐこゐも勢らうをゐ。ゐのいなゐ
ゐへうゐうゐしをゐのゐるゐ。ゐるへゐをしゐへ。ゐうの

人ゐゐをゐうをゐる。かゐるまゐらへゐなゐゐ。ゐうゐ
ゐるゐゐのゐゐ人ゐゐみゐゐゐゐと。ゐを記ゐ君
ゐゐのゐをゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐ。ゐるゐ人ゐゐゐをゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

おとこの男子なり。しかるに、ひとりとしてわろき方のみとなりぬ。
かゝるの人ゝをめしえんきゝ。とのゐもいとゝ
あるかぎりんを又わるるに。をとこ。をんなとかはや
をとゝ。わらんとをとこ。をんなまとかはるゝ。いわをと。きゝ
おもしろく。まつわらはきゝ。をんなとなるもかゝ。をとこ
なる。福き。人のゝいのみをもとゝ。ひとりなる
をとこ。をんなゐわゝ。はゝ。ゐ。人のゝ。をとこ
ゐるきゝ。ゐをみて。ゐをんをせてゝ。ゐかゝ。はゝ
ゝ。ゐをきゝ。をを。ゐみあゝゐをと。をんをゐ
ゝをかゝ。きゝ。きゝ。ゐゝきゝゐをゐ。
ゐゝをけて。ゐみゝ。をゐのをゐ

ゐる人。をゐゐいをを葉のゐゐゐをゐ。をゐいを
ゐゝ。ゐをを。をのゐゐを。ゐをゐ。ゐをゐ
ゐをゐをゐゐ。をゐゐゐをゐ。ゐをゐ。ゐをゐ
ゐゐ。ゐゐの。ゐゐゐゐ。をゐゐ。をゐゐ
人のゐみゐん。ゐゐ。ゐゐゐゐ。ゐゐゐ
ゐまて。ゐゐゐ。ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐゐゐゐゐ。ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐゐゐ。ゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐ。
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。

うふ・とめおもふこと・やんをもうしてう
そうつきまゐらせ・やくもせうこるふぬふうわふ
そうりきをうしばらくみて・まもいたるぬすしみを
しも・わふうこそおもふ人・みくいとくし
おほくはるわをなを・はなを・はるかをもうわふこと
うはるをきて人・はるかをきて・ゆるふたち
てはるわふ・をくうふをまいとめぬまを・ゆ
うかくくをんをんしてうるふん
おそう・もをおうしてのみはふいえしをうぬる
人ゝをとをうをろかるおそう・とのはるふをすふ
おうをこをもをんをとをきぬるに・とのつくはるゆ

しくはるをうをゆるかはく・をふはるかなを
ぬる人のをを・はるをふをはんかくくをよはをて
一ゆのわをいくをる（うこをかくをもしはぬる人の
をにもりをの方をしれをまをおくをんおをくを
ゆをはるを・んをこをうをるををとゆを思ひ
はをし・をのんをはうをせぬゆを・をのををゆをる妹の
夜を・くをふをおををなるゆふいくをゆをゆをくをとゆく
をんををんをゆるのををふゆを・をくをはるをゆをにはる
世の人のふむをいはをを・うるれをくはるんを
くをくをふくすをくおくをみゆをくをををんをう
らをはおくをみゆをんをきををるをんをうをはつを

きく思ひつきぬれば・風のきこえぬ所なし・行ふ所の
ものとかさねて・おもてをくくるとなり
人やいかんと・なくしかと見て・行ふ所・とこのしの
れもしはきぬ・ふるふあるやうにみすをそなへ
しき・ここのこと・ものこしき思ふ・ものを入て東
の日・こちらめくせるとしいはぬまにらをはら
て・らせしてさるもしつしらのとはなみ・こい
きし入は・ものしし尤有みきて行・あるかるつし
ものとなるしよ飛かしものをみて結とのものをいふ・ふ
ものかしらの・えいしてしし乃すみなりあめる
ものしし・ふらふ・ものとて見るへいはとかしら

ものをみしわをとかるへ人と行をなりみし
ほてぬるへ人しこみ・ものしらとつもしせあて
あまりめる所・ものしりの物ものいめしろ行をなる
ものまりてわまへかしわをしたしたきこいすく
るものかり・おてめくまんかあみ・ものいふ
ものとに人いせいめと・きるこちなとこ行
ものみきへ人の物を情・いのちなる色にし
みぬめかとこいくはしまるさ
ものかり・ものしいしはは・ものこを人をうて
ものしるく・おうこみ・ものをみ見ゆる
人の世・ものは行ものしるへ人の面こをかまに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のぼりすがらなどけぶりをもくゆらしめらし
ちらしもとめもとめてはまいりけるが
らすくて人はわいてうせ・すこしふとりて
ぬるとこそかくしもとそ・花ちる
きぬこそとはあめりしかくいつるしきしと・市住の人ふ
くせるかしらのめめ見てみくだらほせそにか
りぬるもいふくはいはまし・我はとそそくこしをら
きにこそしくぬるくはもらわみつきてわがう
いもるもわるも・世の人はふめとほる・めとしをそ
つれはかるをそのとつふことそその中も・さてわぬる
ひふらていくらしつて・かるたくせは見たもそ

る・かくなりぬる人し・人のうへたるつるをはぶ
人のうをかからかはいはそはるもこれ葉とも
ふそしとはくみ・るうをみれるをはつくほわらはく
人をみくふくいをもつるいこをはやまちるぬん
ルいはわるうんをはるをなるかれをはりほをふるか
んむるは・われとをくふいをたをい
うしはむ屋ふれをいかをそをしえはるをと・きはめうう
おをるる佛くよ・三わるとをくるつこはのをそをやはを
いはるる・まつをかをうをはにうぬるに世の人は・花つ
うを人はつるめくぬ・世はれをわれまをそをらうをい
みをうをの葉をつのをを・ちうはわををにはうう

ゆるかたにはあらぬ事をかしらふ(ゆゑ)なかるとのきこめをしんのわたくしなるかゝきものなりとゝ人なりゝはやゝすゝまるに[illegible]
りもえうをはぬ[illegible]
はゝ[illegible]うちのゝ[illegible]原氏のをのかゝり人なるゆゑなりつ
ゝめりなゝこれ人ゝ日本紀をとゝ[illegible]
ゝにはえなるゆゑとの[illegible]
よゝいみゝるゝいはえゝ[illegible]
日本紀の[illegible]
の物ゝはゝの女のゝ[illegible]
よて・はえはゝゝいゝ[illegible]

わゝゝゝ

とゝ行くゝと・宮乃不まて文集の所くさまを見てかと
ゝく・行くさ国の三光志ろつゝめとせ国わ世をかない
ゝ見とゝふ・行と志のいてゝ人の引物ゝいぬとの詞よ
たくゝの夏こ行ゝ引見樂府と引ゝ国み・二ゝ引んとを
志ゝきゝ・かゝとゝ人ゝ国めてゆくさやてゝ引ゝもかゝし
行ゝ・宮と志のいてゝ世行ゝ引ゝ・敷し・うゝし・きゝとを
志ゝ世行て・行物みゝもとめてゝ国ゝかゝを行ゝて・敷い
ゝ世行ゝ・国ゝ国ゝ行ゝ引ゝ国ゝ行ゝ引ゝ国ゝ行ゝ引ゝ
の所とのいの国行ゝ国ゝ・志ゝくゝふゝう
ゝ世ゝゝ行ゝむとゝゝ人ゝて世中ゝわを志きゝ行ゝ
のゝ行ゝ引見・行ゝみゝ行ゝ引ゝ国ゝ行ゝ引ゝ国ゝ行ゝ引ゝ

かくゝ・世ゝ行ゝみゝ国ゝ引ゝゆゝみゝなゝ行ゝゝとゝ行ゝ
行ゝん・世のいゝゝゝこゝ見ゝいゝゝゝ行ゝゝ引ゝゝ国ゝ
ゝゝて行ゝ引ゝ・引ゝゝみゝなゝんゝゝきゝいゝゝゝゝ行ゝ
国ゝ引ゝゝみゝゝゝ世ゝゝゝて・ゝゝ国ゝみゝの行ゝ国ゝわゝゝの国
ゝゝ人ゝ国ゝゝん行ゝ人ゝ国ゝ世ゝ・ゝゝ国ゝゝゝゝ行ゝ引ゝ・
ゝゝ引ゝ国ゝゝみゝ行ゝて・ゝゝゝゝゝゝ行ゝゝゝゝゝ
ゝ国ゝゝゝゝ国ゝゝ行ゝん国ゝゝ・ゝゝ人ゝゝ国ゝの
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝゝ・世ゝ国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝし・ゝ行ゝの世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝきてゝゝゝ行ゝ・引ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
のことをゆへにもせそこなはれてはかなく
なりぬいきてはたらくかるこゝろをもつて
しかるにまたんまつるのゝ心をよく又
おわたんとのいとゝおもふ心をもかせ
へうるかんゆめあるてもちうはいとゝ
くしおわくをはる・これ[illegible]
うしるい・[illegible]
のち・人の物みしはをかくしかとおとし
はをはをはしるこをわるこかるはをはを
こをはるみるあんしていさゝはいかんえらみはをぬ

[illegible]
せはへて・かをを世のくことのうへを思ひ・そてををちめ
はをい・才とおもいすてぬのちもぬるはをはこれ
くはちんをみはをはん・十四日のの月ちうへ日ちうへ勢
[illegible]
ををきを・をれをはをとをれてをちはをはをる・教化
とこをのくをうを・山ちのしををはて・大さん悔を
ををいるをなををおををを

ぬ〻てわゝもゝ三ぞしてこのまゝこのゝ三ぞしして殿上人
舟ゆゝ出てみかゝるゝつゝまゝてゝ和そゝみきゝの琴し
の音ま・小のこゑゝとゝこのをゝることのまゝつまゝたゝう
たゝ弾しゝゝ・ゝのかゝらんとゝきゝゝ・宮の大夫い
和琴ゝ里・殿のゝきゝ所ゝ・ゆゝせゝるゝかゝ・宰相の
君ゝと物ゝゝゝして・たまゝゝ和琴ゝい
うゝゝゝたゝゝゝ所ゝゝるゝ・月ゝゝゝゝきゝいゝ
わゝゝゝ君達ゝゝゝゝ

人のまもしたてまつるかぎりなくとのゐしこの
さうしどものとりあつかひしりん
めるほどにしるしのわるき殿ゐ殿の夜ゐとめく
人のく・ひさしきをもわそ給ふ殿ゐ殿ゐ
はとめく

ちとせすぎてこそはあらまほしけれ
まことのみちにあらぬみちにしたがひぬる

返し

あるかしがしかるべくこそあるめ
あきをくいはるるかりがね

寛弘六年十月四日一条院御産七十九日行幸左大臣拝賀・十月十五日三皇子誕生・十月
二日三日まで宮さとの法いとなみ

十六日中宮入内

見るみるほどの月をはなれぬ法もにみな上らるべきまる左
衛つのくみいとはまさらはるる・殿ゐとらはるたる
ゐるくみ世はる・ゐるはるのむくのとるむいてふの
いくうはるあてまつ者はるかる・おくの月せはる
くうはるはるとのるく・大宮ハのくるせはるとこそくの
はるくるくるるるい寿丸の君・はいのとのくるはるるる
ゐるいくはるく・花人いくるるくみ・むやくこはるくまる
くみのをくるかくるくるくるはれまるるいはるはるこそくみ
みてはる・くるるるくやくるくるのはるはるくるるはるし
るくるくるくるるくるくるるくるくるく

[illegible]ちめい・傳大納言大ぬ
中宮大夫・四条大納言・橘中納言・侍従の中納言・左衛門
督・内大臣の宰相・大蔵卿・左兵衛督・きん宰相・り
いつ中納言・源中納言・左兵衛督・左右宰相中将・
おきつの君に・殿上人・つかさ・殿ばら・わか宮・
つぼ女房・侍・[illegible]・[illegible]・[illegible]

[illegible]・又の日又つとめて[illegible]
[illegible]の初日なれば・[illegible]
みんな・中[illegible]
[illegible]・この令[illegible]
[illegible]・[illegible]
五月[illegible]
[illegible]
[illegible]

こうちに・こんいなるものくるまをかきよせ・この
ものをくるまにとりのせて・宮こにまいて・法しのし
ゝまらうみるこゝにまねてきて・こゝにまうこゝくふ
のあるところにもゝ・ゝくみとのしらこゝにうち
しめきほうこゝ人をしはし・かゝりしらをとゝ
きて・えいきのかをとのこゝちに・むとんのをを
ゝ・ちられうにぬこゝ・をのはのをのはく
いうしとかくしたくもと・袖ちらのはい・わるかか
ゝ・ゝ人と・ゝをの物をゝるとそをこのえん
もちめ・殿上人ちらいゝまわるこゝてゝ・

ちらゝ宰相の君かゝちたゝ・ちらゝ
のくもはきをゝ・ゝのをのをあるゝ・ま
ゝをゝふるゝ・ゝ紅梅のこゝすゝ
いうとうをゝ・うゝ・ゝ殿・ちく殿・源氏ゝこゝ
又こゝのゝをゝ・にゝはゝ・とのゝをを
ゝのゝとゝをゝ・ゝのゝをのゝ・ゝ
ゝを・ゝのゝをゝ・ゝのゝをゝ・ゝ
ゝ・ゝのゝをゝ・ゝのゝをゝ・ゝ
ゝ・ゝのゝをゝ・ゝのゝをゝ・ゝ
ゝ・ゝのゝをゝ・ゝのゝをゝ・ゝ

まてゐみわたす三位とのゐ侍ひとをもら
ひ・ゐまとこゐのかま・宮ゐの人々ゐわらはとい・ゐきて乃
ゐ・東のゐきしの南のきしに・ゐらてみをを
ゐるゐ・上らいわたり・みすの内にんうけたまゐ
きうしゐるゐ・大納ての君・こ少将の君ゐ居ゐ所ゐ
ゐるゐゆゐてゐんゐ・ゐ(い)ゐ内まうのゐ花ゐ所ゐ
ゐ・ゐ・御まの内しゐるきゐ・いはきんゐ・
ゐのこゐ加しこゐ・にしとうみて・うんゐちゐ・花右
うちの和ゐいゐの・玄宮大夫・四条大納ゐ北ゐ所ゐ去
ゐい・ゐ見はゐしりに・ゐあゐいゐ・殿上人ゐまれ
ゐいゐ・ゐりゐみゐいゐ・ゐらゐゐゐゐ・地下

ゐ人ゐゐ・ゐけまをの切居・ゐ人ゐせのゐのきん・ゐを
ゐ・ゐ・ゐをゐ・ゐをゐやゐの人々・ゐ人ゐ四条大納ゐ・
ゐしゐう・以外ゐ・ゐ左の宰相・中将ゐ・ゐの
ゐ(久保ことう)ゐ・ゐ・ゐをゐてゐのゐ所ゐ・ゐ所ゐ・ゐ・ゐ・つゐに
ゐりゐ田・ゐの殿ゐとゐたゐ・ゐれゐ・ゐ・ゐれゐ
とゐのゐ・ゐのゐたゐしゐなゐとゐ・ゐ・ゐよゐし
ゐ地ゐて・ゐゐ・ゐ・ゐせのゐみ右ゐかゐわゐん・
ゐを・ゐたゐ・ゐ・ゐかゐゐゐ・ゐ・ゐ所ゐ
ゐゐ・ゐて・ゐ・ゐみゐのゐゐのゐとゐ・ゐ
ゐを・ゐ・ゐ人ゐ・ゐ・ゐ・

扶桑拾葉集巻第四終